

5.21.Wed. at Kobesanda

9:00~10:30

坂口 勝一 教授



朝一番の講義開始10分前。担当の坂口先生が教室でパソコンの準備を整える間に、学生たちが続々と教室に集まってきた。「今日は東アジアの成長モデルをテーマにお話したいと思います」。定刻に先生の第一声で講義が始まると、教室は静まり、学生たちの視線はスクリーンに注がれた。

前回までの復習を兼ねて映し出された「地域別一人当たりGDPの推移」のグラフは、1980年以降、東アジア太平洋地域が他の途上国を含む地域と比べ、際立った高い伸び率を示している。「こんな顕著な成長を遂げることができたのはなぜか? そこが今日のポイントです」と話すと、先生は1冊の資料を掲げた。「1993年に世界銀行が出した『The

East Asian Miracle (東アジアの奇跡)』という有名なレポートです。教室でパソコンの準備を整える間に、学生たちが続々と教室に集まってきた。「今日は東アジアの成長モデルをテーマにお話したいと思います」。定

刻に先生の第一声で講義が始まると、教室は静まり、学生たちの視線はスクリーンに注がれた。

総合政策学部の特色の一つに、実務経験の豊富な教員が多いことが挙げられる。この講義担当の坂口先生も大蔵省入省後、IMF、アジア開発銀行勤務も経験した現場経験が豊富な教授の一人だ。講義で紹介された世界銀行のレポートも、仕事の中で扱ってきた資料の一つ。それだけに、ポイントを突いたり解りやすい解説にどんどん引き込まれていく。

1980年代から顕著になった「東アジアの奇跡」と呼ばれる東アジアの経済発展について、その原動力とメカニズムを政策や世界との比較をからめながら解説。世界銀行発行のレポートなど、世界の第一線で活用された資料を豊富に使用。経済発展の経過が具体的な例で示され、発展戦略や政策についての考察が深まる。

## 東アジアはいかにして発展を遂げたのか? 具体的データから、そのメカニズムに迫る!

講義の流れ  
醍醐味

1980年代から顕著になった「東アジアの奇跡」と呼ばれる東アジアの経済発展について、その原動力とメカニズムを政策や世界との比較をからめながら解説。世界銀行発行のレポートなど、世界の第一線で活用された資料を豊富に使用。経済発展の経過が具体的な例で示され、発展戦略や政策についての考察が深まる。

### 第一線のレポートを資料に 現場経験豊富な先生の解説が続く

具体例を知つたあとでの経済理論は 水が染み込むように理解が進む



### VOICES 学生の声 of University Students



大石巧磨さん(右)  
総合政策学部 国際政策学科2年  
国際ボランティアや国際金融に興味があり、こちらの学科を選びました。新聞やテレビで見るTPPなどの国際問題を細かく知ることができます。講義中の学生への質問も一方通行ではなく楽しめます。

堀真影さん(左)  
総合政策学部 国際政策学科3年  
途上国の開発に興味があり履修しました。海外援助は必要なのか、なぜ東アジアは発展できたのかなど、実際のケースで説明してください。学生が理解するのに役立つと思います。

徳増瑛子さん(中央)  
総合政策学部 国際政策学科3年  
国際政策を学びたいと思い、短大の英語学科を卒業後3年次に編入しました。どのように国が発展していくのかが学問的に学べ、マクロ的視点が備わります。データを多く示して下さるのも魅力です。



最後に先生が「質問はありますか?」と問いかけると、一人の学生から「工業セクターの雇用は続くのか」という質問が出た。すると先生は、「当然工業セクターの労働人口にも壁があります。あなたが政策担当者だったらどうする?」と逆に問い合わせ、学生から

この時点で、講義はすでに1時間が経過しているが、ポイントの提示、具体例を使った解説学 生とのやりとりが、リズミカルに行われ、非常にテンポがよい。経済理論も具体例の解説のあとだと、すんなりと頭に入ってくる。

講義の最後は、ノーベル経済学賞を受賞した英國人経済学者アーサー・ルイスの「二重経済モデル」が取り上げられ、労働人口の農業セクターから工業セクターへのシフトが経済発展に伴って起こることが解説された。

「サービス業へシフトします」という答えを引き出した。そして「そういうシフトをどうするか」というテーマで進めていきましょう」と時事問題につなげて、補足説明に入った。そしてアベノミクスの第3の矢のプランが6月に出る予定です。日本の雇用や経済成長にアベノミクスが、どう貢献するのか。また授業でも扱ったことを示された。それが、アベノミクスです」と時事問題につなげよ」と時事問題につなげて、補足説明に入つた。

この矢のプランが6月に出る予定です。日本の雇用や経済成長にアベノミクスが、どう貢献するのか。また授業でも扱ったことを示された。それが、アベノミクスです」と時事問題につなげよ」と時事問題につなげて、補足説明に入つた。

この矢のプランが6月に出る予定です。日本の雇用や